第四九回事業所訪問

こんにちは健保組合です！

株式会社デイリートランスポート（船橋市）の巻

寒かった今年の冬、各地で大雪の被害が相次ぎ、四三年ぶりに気象庁が「平成十八年豪雪」と名付けました。しかしながら季節は移ろい、もうすぐ雪解けかというころ、明るい話題を提供してくれたのは、「クールビューティー」と言わしめた荒川静香選手でした。トリノ五輪で仲間がことごとく惜敗しプレッシャーのかかるなか、相性のよい曲「トゥーランドット」にのって、みごと金メダルを獲得しました。

銀盤の天使が頂点を極めたのをきっかけに、野球のWBC、サッカーのワールドカップなど、日本人が世界の舞台で活躍し、日の丸がはためく……。二〇〇六年、そんな年の予感がします。

＊　＊　＊

三月十四日、事業所訪問の第四九回目としてお邪魔したのは、船橋市に所在する株式会社デイリートランスポート（大村剛史郎社長）でした。

船橋市は、昭和十二年四月に県下四番目の市として誕生、千葉県の北西部に位置し、都心や成田空港から近いばかりでなく、京葉港や豊かな交通網を併せもつなど、非常に恵まれた立地条件を備えた街です。

かつては、成田山に参拝する佐倉街道の宿場町として栄えましたが、東京に近いという地理的条件を生かして近代的な都市へと発展し、市制施行時には四万三、〇〇〇人ほどだった人口も、現在は五六万人を擁する、全国有数の都市に発展しています。

大澤常務

今日の目的地は、京葉港に面した高瀬町にあり、ここは組合事務所からもほど近く、車を数分走らせ到着しました。社屋の二階へと足を進め、「こんにちは健保組合です！」とごあいさつすると、応接室に案内されました。そこでは、執務中だった大澤満晴常務が「ようこそいらっしゃいました」と私たちを快く迎え入れてくださり、ご多忙な時間を割いて取材にお付き合いいただきました。

緊急事態の収束に全力で取り組む経営姿勢

初めに、近年まれにみる厳しさだった今年の冬のエピソードをお聞きしました。全国各地では、大雪の被害にあった方々も多くいらっしゃいましたが、そのような方々を陰で支えたのが同社でした。主にセブンイレブンの配送業務を担うことから、豪雪地帯への輸送が滞った際には、千葉県からも応援に駆けつけたとのこと。「店頭に欠品させない」「生きる糧である食糧は何としてでも届ける」という使命感から、「運賃は終わってからの相談ですね…」と大澤常務の苦笑い（?）が物語るように、採算と切り離して緊急事態の収束に全力で取り組んだ同社の経営姿勢をかいま見ることができました。

ドライバーの方々も目的達成のため、慣れない雪道運転という過酷な業務を「意気に感じて」こなされたそうです。同社が果たしておられる社会貢献について、冒頭、お聞きすることができ、わが業界を改めて誇りに感じたところでした。

デイリートランスポートは、フジフーズ株式会社の製造する製品を輸送する部門が独立して、同社が一〇〇％出資し、昭和六十三年に設立された企業です。設立時も現在も、密接な親子関係であることは間違いないのですが、二年前に大澤常務が就任してから、いわゆる「親離れ」に傾注されてこられたそうです。具体的には、取引先を親会社オンリーから、一般運送事業者のように独自の営業ノウハウをもって顧客層を拡大することでした。

前述しましたが、同社の業務の中心は、東京都や千葉県のセブンイレブンの五〇〇近い店舗を対象にし、三六五日二四時間の配送です。「安全・確実・丁寧」をモットーに、品質の保持、環境への配慮など多様なニーズに呼応しながら、いまやセブンイレブンに欠かせないパートナーとしての地位を確立しつつあります。

もうひとつの「親離れ」は、「意識改革」だったそうです。むしろ、このことのほうが苦労された、と大澤常務がおっしゃいました。管理者をはじめドライバーに至るまで、旧来の「親」依存スタイルから脱却し、「自分の歩く道は自分が探す」ことに気づくまでには紆余曲折があったそうです。

しかしながら、実績が目に見えるようになると皆さんの意識が変わり、こうしてみごと、「親」からの旅立ちを果たしたそうです。

グループミーティングで共通の問題点を提起し合い、運転モラルの向上などに奏功

同社では、社員の方々のスキルアップを図るため、また、生産性を向上させるためにもグループミーティングを取り入れておられるそうです。共通の問題点を提起し合い、解決に向かって建設的な意見をぶつけ合うことによってコミュニケーションも図られ、「気づき」が得られるとのことです。

公道を職場とするわが業界にとって、事故防止や運転モラルの向上などは永遠のテーマです。一人一人が他人を思いやる気持ちをもつようになれば、その解決策がおのずと見えてきて、心にもゆとりができるものです。それには、自らを省みる機会が必要です。グループミーティングは、あらゆることに奏功しているようでした。

中長期的視野で業績アップを図り、夢や「絵空事」の具現化へ

同社は最近、名古屋や仙台にも拠点を拡大されたそうです。現状維持にとどまらず将来を見据えた事業展開を考えておられ、中長期的視野で業績アップを図っておられます。

まだまだ数ヵ月先が闇という経営者が多いなか、かなり先まで展望が開けていますね、とお聞きすると、大澤常務は「夢や『絵空事』を必ず具現化できるという意気込みです」とおっしゃいました。

ちょっと難しい回答だったのですが、氏は、ゴルフのパットにたとえられ、「夢ははるか先のカップインでも、初めからカップをねらうプレーヤーはいない。そこにボールを入れるためには、ラインを読み、ライン上にあるポイントをいかに通過させるか努力する。ポイントは近ければ近いほど簡単だが、経験と鍛錬を重ねればその距離も長くなるはず」とのことでした。

「何事にも順番があり、まず目の前の目標に向かって最大限努力する！　目的は決して遠くないと信じること！」だそうです。上級者は、初心者を導いてあげることも大切だと加えられました。

夢の実現へ、デイリートランスポートのトラック

いろいろな話題を、ウィットに富んだ内容で最後まで熱く語ってくださった大澤常務でしたが、最後に、ご自身の健康管理をお尋ねすると、「特に何もやっていませんし、人間ドックも数年行ってません」とおっしゃいました。同社を独り立ちさせるというたいへんな役回りがありご多忙でしょうが、健康は最高の宝ですからぜひご自身のメンテナンスも、とお願いすると、「最近は娘とスノボーに行きました」と続けられたときに氏の目尻が下がったようにお見受けしたのは、気のせいだったのでしょうか。ご家族の愛情が、氏の心の健康も支えていると確信しました。

こうして予定の時間が経過し、今日の取材を終えました。

大澤常務をはじめ、デイリートランスポートの皆さん、ご協力ありがとうございました。

＊　＊　＊

どんなに冬が厳しくても桜の木々は晴れ姿を披露する準備を着々と進めています。健康保険組合の近くにある桜の蕾も色づき始めました。自然の営みのように、厳しい環境下でもがんばれるように自分を磨きたいものです。